

## テーマ1 復興の取組の中で進めている地球温暖化対策

### 大原利真氏

このセッションでは、それぞれの課題について、簡単にご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

### 亀山康子氏

国内においてCO<sub>2</sub>削減は、特に経済にとってはマイナスだ、追加的なコストだ、というような風に受け止められることが非常に多かったのではないかと思います。もちろん、CO<sub>2</sub>削減だけを目的にするのであれば、そのための追加的な技術導入はコストになります。しかし、そういった新しいものを取り込むことで、むしろコスト削減になる。あるいは地域の復興に役立てていく、その中に取り込む。より便利でより快適でより環境にも優しい、複数の目的を全部複合することによって、マイナスの発想からプラスに変えていけているという風に受け止めました。

### 深山陽子氏

私が専門にしている施設園芸、環境をコントロールするものでさえ、農業はその場所の影響をかなり受けます。逆に言うと、その場所の地の利を生かしたものにしていくなると必要があると思っています。冬は比較的温暖で、なおかつ交通の便が比較的整備されている浜通りですと、地の利を生かした施設園芸、農業というのでも展開できるのではないかと考えています。せっかくなのでエネルギーに関しても考慮できる、新しい農業の形を作っていけたら良いと思っています。その時に、農業に関してだけではないですが、担い手が必要になってきます。全国的

に言えば、農業に新しく取り組みたい方は大勢いらっしゃるので、そういう方の力も借りつつ、長い目で見て、経営体を徐々に増やしていけるような人材育成研修制度のようなものがあつた方が良いと感じております。

### 佐藤順英氏

みんなエネルギーや食べるものを地産地消し、循環させていくのが大事と思っています。コミュニケーションと志をみんな理解して進めていくことで加速していくのでは、と思いました。



## テーマ2 福島の復興を進める中で今後、どのような地球温暖化対策に取り組みたいか、協働した取組が必要か？

### 牧ノ原沙友里氏

専門知識がない住民の方は、自分たちがどういことをすれば、そういった問題に還元できるのかというところが、具体的に分からない方が多いと思います。そういったことが私たちの生活を送る上で環境に貢献できるのかという部分と、普段生活している中で、既にその行動がそういった対策に繋がっているものがあれば、ぜひ教えて頂きたいと思います。

### 亀山康子氏

個々の取組も大切ですが、私たちがこういった行動をとっていますということを発信すること、自分たちがそういう世の中に変わっていくことを望んでますということをアピールすることが大事だと考えます。そういったことの積み重ねで社会全体が変わっていくということを、ぜひお伝えしたいというふうに思います。

### 深山陽子氏

日常の生活の中で、お買い物の時とかに例えば野菜を買うとしたら、できるだけ自分の住まいの近くで作られた物を買えば、その輸送エネルギーと、その保管にかかっている時間、冷蔵とかに使っているエネルギー等は少なく済んでいるはずなので、その時に意識して買うことで、温暖化対策につながっていくのではないかと思います。そういう身近な生活の中で意識して頂ければ、大分違うのかなと思います。さらに、その時に生産地や生産者が分かれば、食べて美味しかったと生産者の方に美味しかったよと伝えられると、なおさら生産者

の方もモチベーションが上がってお互いに良い関係になって、地域づくりのきっかけや、さらなる発展に繋がっていくのではと思います。

### 佐藤順英氏

やっぱり我々国民が、世界のひとたちが、一人一人が意識を変えることだと思います。一人の意識が変われば、世界が変わっていくのかなと。「一隅を照らす」いう言葉もありますが、「これだけ消したってどうせ・・・。」ではなくて、一人一人が意識を変えて注意をしていけば、大分エネルギー問題というのは大分解決できるのではないかと思います。

### 伊澤史郎氏

私は一人一人の自覚に尽きると思います。一人一人がこの地球温暖化に関してどう向き合っていくかというのが、一番大切だと思います。皆さんにプラスになるものを付与する制度、仕組みをある程度作ることでより進むのではないかと。

### 亀山康子氏

やはりインセンティブをつけていく、そういった制度を入れる、これは非常に重要と思っております。

## テーマ3 福島の将来の姿は？そして夢

### 大原利真氏

福島において復興を着実に進めていかななくてはいけない中での温暖化、これらをどうやってうまく繋げて、将来像を描いていくのか、将来やっていけばいいのか、非常に重要な課題だと思います。そういったことを念頭に適宜ご発言頂ければと思います。

### 深山陽子氏

人材育成確保ということが、これから非常に重要になっていくのではないかと思います。次の世代、さらに次の世代が、福島で新しい事、そしてここからできる事を、本当に喜びをもって実践し、生活できるような場になって頂ければいいと思っています。

### 佐藤順英氏

色々な所から研究者が集まってきて、しかも町は再エネでちゃんと整備されているというような町に、将来なれば良いと思っています。自然の中で、あるべき姿で、一生懸命仕事できる、そんな双葉地域になればいいいつも思っています。そのためにはこれをやっていきましょう、あれをやっていきましょうという目標点があると、一つずつ潰していけるのではと思っています。

### 伊澤史郎氏

双葉町が一番先進的な取り組みをしている町になっていけば良いという願望で、そういった意味では2050年のゼロカーボンには既に達成していた、そういう未来になれば、この福島の復興というのはおそらく達成できているのではないかと感じています。

### 牧ノ原沙友里氏

福島で暮らす人、働く人、あるいは福島を訪れる人にとって、安心して過ごせる場所

であってほしいと思っています。福島だからこそできる、環境再生の可能性を見つけて頂いて、環境問題の取り組みに対する先進地になってほしいと思っています。震災以降、福島は何かをしてもらったり、受け身の部分が多かったとは思いますが、これからは福島から様々な面で新しいものを発信や提案することで、日本全国、あるいは世界の方にも何かお返しをしていける県であってほしいと個人的には思っています。

### 亀山康子氏

今日の皆さんのお話を伺って、福島県さんの将来の姿っていうのは、他の都道府県さんが羨ましがらる姿を想像しました。本当に明るい未来と可能性が広がっていて、ぜひそれを実現して頂きたいと思ったり、全国に向けて発信して頂きたいと思ったり。

### 大原利真氏

「Think Globally Act Locally」とよく言います。福島においては、とりわけ地域の関係者が共同して「Think Globally and Locally」、Globally だけじゃなくて Locally、一緒に考える、その上で共同して Act Locally していくという、共同という言葉が非常にキーワードになるのではないかなと考えている次第であります。

このシンポジウムには、様々な方が参加されていると認識しております。地域の様々な関係者が共同して、世界の手本になるような「環境先進地域」、是非、皆さん一緒になって作っていきましょうではありませんか。本日は会場、オンラインからたくさんの方々にご参加頂きありがとうございました。